

華麗なるイタリア貴族のコレクション、日本初公開

ボッティチェリ、カラヴァッジオ、ベルニーニ…



ボルゲーゼ美術館展  
GALLERIA BORGHESI

ラファエロ

《一角獣を抱く貴婦人》



## 開催趣旨

このたび、京都国立近代美術館と東京都美術館におきまして、「ボルゲーゼ美術館展」を開催いたします。

イタリア、ローマ市北東部の広大なボルゲーゼ公園に位置する同美術館は、名門貴族であったボルゲーゼ家歴代のコレクションで知られており、世界に名だたるルネサンス・バロック美術の宝庫と言われています。

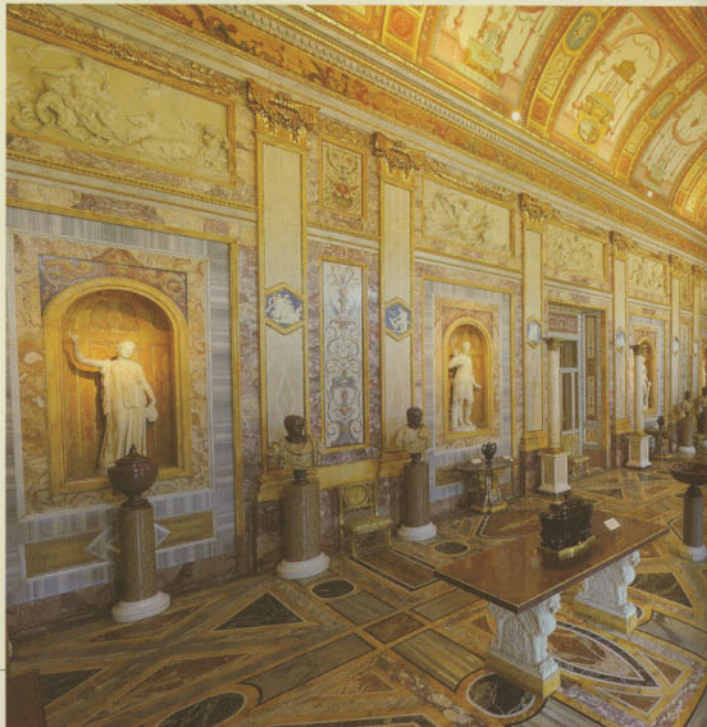
本展は、その珠玉のコレクションから選ばれた、ラファエロやボッティチェリといったルネサンスを代表する巨匠をはじめ、バロック絵画の先駆けであり、「最初の近代画家」とも言われるカラヴァッジョ、そしてジャン・ロレンツォ・ベルニーニら、文字どおりイタリア美術の最盛期を概観できる内容となっています。

今回はボルゲーゼ美術館のコレクションを日本でまとめてご紹介する初めての試みであり、その多くが日本で初公開の作品です。15世紀から17世紀まで、歴史の推移に沿って作品を見ていただくことで、“輝ける時代”に展開した「表現の変遷」をわかりやすく理解できる構成とします。またローマ教皇と枢機卿を輩出したボルゲーゼ家の歴史に加え、17世紀に建てられた「ヴィラ・ボルゲーゼ」を現在も展示室とする、美術館の壮麗な建築もご紹介します。

カラヴァッジョやベルニーニのパトロンであった枢機卿シピオーネ・ボルゲーゼと彼を起点に築き上げられたボルゲーゼ・コレクション誕生の背景を知ることは、ルネサンスからバロックへと至る、歴史上まれに見る時代のうねりと、固有の文化の在り方を日本の鑑賞者が理解していく、得がたい機会になることでしょう。

およそ250年にわたるイタリア美術の流れを、約50点の名品の数々によってご覧いただく本展は、ラファエロの《一角獣を抱く貴婦人》をハイライトに、カラヴァッジョという「異端者」とその追従者(カラヴァジェスキ)たちが登場する終盤に向けて、われわれに忘れがたい印象を残すものになると確信しております。

主催者







## ボルゲーゼ美術館

ボルゲーゼ美術館(Galleria Borghese)は、ローマ市北東部、ピンチアーナ門の北側に広がる広大なボルゲーゼ公園(Villa Borghese、約5平方キロメートル)の中に建っています。ローマの名門貴族ボルゲーゼ家のシピオーネ・カッファレッリ=ボルゲーゼ(Scipione Caffarelli-Borghese、1576-1633)枢機卿によって、1605年に購入されたこの敷地には、もともと葡萄園や菜園、そして厩舎や倉庫、また珍しい動植物を集めた動植物園や鳥舎、噴水などがあり、さらに17世紀には、すでに古代彫刻の名品があることで知られていました。彼はこの広大な庭を整備するとともに、古代ローマの荘館に着想を得て、お抱え建築家ヨハン・ファン・サンテン(伊名:ジョヴァンニ・ヴァサンツィオ)とフラミニオ・ボンツィオに依頼し、1612年から15年にかけて、夏の離宮であり彼の芸術コレクションを収め展示する館としてこれを建てさせました。シピオーネ枢機卿が当時の教皇パウルス5世の甥であったことから、大理石で飾られたこの白亜の館は、教皇庁の迎賓館としても使われ、完成直後の1615年には日本の支倉常長率いる慶長遣欧使節団がここを訪れて歓迎されています。美術館のコレクションの基礎になっているのは、シピオーネ枢機卿が収集した素晴らしい古代彫刻の数々とルネサンスから彼の生きた時代、つまりバロックにかけての彫刻・絵画です。中でも枢機卿が好んだ彫刻家ジャン・ロレンツォ・ベルニーニと画家カラヴァッジョの作品は点数も多く、この美術館のコレクションの核をなしています。ただ、この館にもともと展示されていたのは、古代美術と彫刻のコレクションと僅かな絵画作品だけであり、ローマ市内中心部にあるボルゲーゼ宮に収められていた絵画コレクションの大半が、ここに展示されるようになったのは1891年のことでした。19世紀になるまでコレクション全体は、貴重な追加購入などがあつた以外、散逸することなく奇跡的にほぼ完全な形で保たれていました。しかし、1807年にカミッロ・ボルゲーゼとナポレオンの妹であるパオリーナ・ボナパルトが結婚することで、ナポレオンの圧力により、ボルゲーゼ家はコレクションから古代彫刻やレリーフを中心に約400点もの作品を売却し、それらは現在ルーヴル美術館のボルゲーゼ・コレクションとなっています。その他、17世紀絵画の多くが散逸したと伝えられていますが、現在でもボルゲーゼ美術館には、ベルニーニやカラヴァッジョの諸作品をはじめとして、ラファエロの《一角獣を抱く貴婦人》(1505-06年)や《キリストの埋葬》(1507年)、コレッジョの《ダナエ》(1530-31年)やティツィアーノの《聖愛と俗愛》(1514年)などの名作が収められており、世界で最も著名かつ重要な個人コレクションとしてその名を馳せています。これらボルゲーゼ家のコレクションは、1902年にイタリア国家の管轄下となり、館は美術館として一般に公開されるようになりました。そして1997年には、竣工当時の記録などをもとにして進められた建物の修復工事が完成し、白大理石による往年の輝きが蘇って現在に至っています。





## 序章

### ボルゲーゼ・コレクションの誕生

ボルゲーゼ美術館は、教皇パウルス5世の甥として、教皇庁で権勢を誇ったシピオーネ・ボルゲーゼ枢機卿の美術コレクションとそれを収めるために建てられた邸宅に端を発します。ここでは、ヴィラ・ボルゲーゼと呼ばれたその建物と庭園の全体像を、ほぼ同時代の版画によって紹介するとともに、シピオーネ枢機卿やパウルス5世といったコレクション形成の中心人物の横顔を、絵画・彫刻・モザイクといったさまざまな技法による作品を通して紹介します。

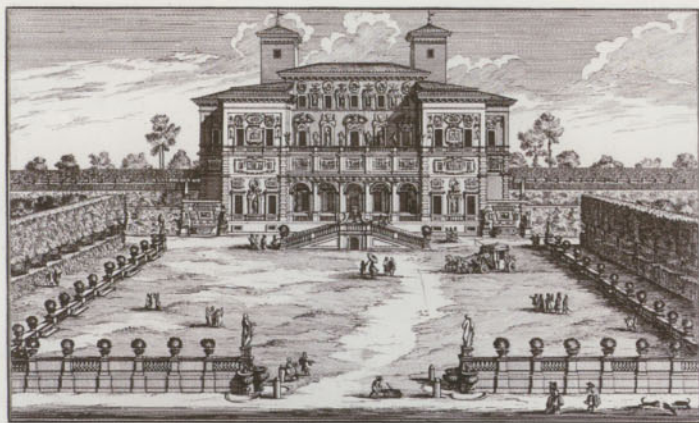
ジャン・ロレンツォ・ベルニーニ [1598-1680]  
《枢機卿シピオーネ・ボルゲーゼの胸像》

**日本初公開**

1632年頃 大理石 高さ 80.1cm

**【貸出画像 1】**

教皇パウルス5世の甥であり、17世紀のローマを代表するパトロンであった枢機卿シピオーネ・ボルゲーゼ。気に入った美術品を得るためには、手段を選ばなかったという枢機卿は、ベルニーニの後援者でもありました。ベルニーニは、彫刻家、画家、建築家として、当時最も影響力をもっていた芸術家です。ローマ教皇庁の最高顧問として権力を握り、情熱的な収集家であったシピオーネ。その相貌には、自信に満ちた風格が感じられます。



アレッシンドロ・スペッキ 《ボルゲーゼ荘正面ファサードと庭園》

**日本初公開** 17-18世紀 銅版画 22×32cm



マルチェッロ・プロヴェンツァーレ 《オルフェウスの姿のシピオーネ・ボルゲーゼ》

**日本初公開** 1608年 モザイク 44×63cm



## 第1章

### 15世紀・ルネサンスの輝き

古代美術に心酔していたシピオーネ枢機卿は、中世美術にはあまり関心がなかったとみえ、彼のコレクションのほとんどが15世紀後半以降のもので占められています。ここでは、15世紀終わりから16世紀初めにかけて、つまりルネサンス芸術がその若々しい輝きを放っていた時代の作品群を、ラファエロの清冽な作品《一角獣を抱く貴婦人》を中心に、ボッティチェリやレオナルド・ダ・ヴィンチといったルネサンス芸術興隆の鍵を握る作家の影響を交えてご紹介します。

ラファエロ・サンツィオ [1483-1520]

《一角獣を抱く貴婦人》

**【日本初公開】** 1505-06年 油彩、板で裏打ちしたカンヴァス 67×56 cm

**【貸出画像 2】**

画家20代前半の作品です。安定した構図と精妙な描写からは、若き天才の驚くべき手腕を認めることができるでしょう。「貞淑」の象徴である一角獣(ユニコーン)を抱く女性の姿には、レオナルド・ダ・ヴィンチの影響が見受けられます。かつては別人により一角獣が塗りつぶされ、ある聖女像に描き変えられていましたが、20世紀に行なわれた修復の結果、本来の姿を取り戻しました。気品に満ちたモデルが誰だったのかは、現在もわかっていません。

サンドロ・ボッティチェリ [1445-1510] とその弟子たち

《聖母子、洗礼者ヨハネと天使》

**【日本初公開】** 1488-90年 テンペラ、板 直径170 cm

**【貸出画像 3】**



伝ジョルジョーネ《フルーツを持つ歌手》

**【日本初公開】** 制作年不詳 油彩、カンヴァス 102×73 cm

工房で弟子とともに制作された作品です。聖母マリアと幼児キリストを中央に、跪く洗礼者ヨハネと6人の天使が複雑に配されています。円形の絵画(トンド)は、ルネサンスの聖母子像によく見られるもの。ボッティチェリが活躍したフィレンツェでとくに好まれました。聖母マリアに抱かれたキリストは、右手で祝福のポーズを取り、左手にザクロを持っています。数多くの実をつけるザクロは「豊稔多産」や「復活」の象徴とされました。



## 第II章

### 16世紀・ルネサンスの実り — 百花繚乱の時代

フィレンツェで開花したルネサンスは、その輝きを増しながらイタリア半島各地にさまざまな花を咲かせました。ヴェネツィア絵画の巨匠パオロ・ヴェロネーゼやフェッラーラのドツッ・ドッシ、そしてローマのアンニーバレ・カラッチとその一族、彼らは、ギリシャ・ローマの古代美術だけで

はなく、当時油彩による描写技術や風景の表現方法では秀でた存在であったフランドル絵画の影響をも貪欲に吸収し、それぞれの地域に根ざしつつ、まさに百花繚乱の如き作品群を生み出しました。

パオロ・ヴェロネーゼ

[1528-1588]

《パドヴァの  
聖アントニオの説教》

【日本初公開】

1580年頃

油彩、カンヴァス

104×150 cm

【貸出画像 4】



アントニオは、ヴェネツィア西方の都市パドヴァで没した聖フランシスコ会の修道士です。彼にまつわる伝説は数多く、「魚への説教」もそのひとつです。聖人の話を聞くために、魚たちが崖の下

へ集まって来ている。ヴェネツィア派を代表するヴェロネーゼは、豊かな画風で知られますが、本作品では空と海の奥行きを強調する構図をとり、「奇跡の瞬間」を劇的に描き出しています。

アントニオが持つ白いユリは、彼の純潔さを象徴するものです。



ヤコボ・バッサーノ《季節：春》

【日本初公開】 1576-77年 油彩、カンヴァス 141×186 cm



ジョヴァンニ・カリアーニ《聖母子と聖ペテロ》

【日本初公開】 16世紀 油彩、カンヴァス 73×93 cm



### 第三章

#### 17世紀・新たな表現に向けて—カラヴァッジョの時代

この章では、17世紀つまりシピオーネ枢機卿がコレクター兼パトロンとして活動を行っていた時代の作家をご紹介します。シピオーネ枢機卿は、カラヴァッジョの後援者として知られ、《洗礼者ヨハネ》など彼の作品は今なおボルゲーゼ美術館コレクションの重要な位置を占めています。

カラヴァッジョ [1571-1610]

《洗礼者ヨハネ》

**日本初公開** 1609-10年頃 油彩、カンヴァス 152×125 cm

**【貸出画像 5】**

38歳で亡くなったカラヴァッジョ最晩年の1点です。口論の末に殺人を犯し、逃避行の中で描かれた本作品は、恩赦のとりなしを期待して、パトロンであった枢機卿シピオーネ・ボルゲーゼへ贈られる予定であったと言います。しかし、枢機卿がこの絵を手にしたのは、画家が短くも波乱に富んだ生涯を閉じた後のことでした。ドラマティックな光によって暗闇から浮かび上がるヨハネは、けだるそうな雰囲気や漂わせ、妖しい魅力をたたえています。



パッティステットロ・カラッチョロ《ゴリアテの首をもつダヴィデ》

1612年 油彩、カンヴァス 202×112 cm



グエルチーノ《放蕩息子》

**日本初公開** 1627-29年 油彩、カンヴァス 125×163 cm

## ボルゲーゼ美術館展 開催概要

## [ 京都展 ]

会場: 京都国立近代美術館(京都市左京区岡崎円勝寺町 Tel. 075-761-4111)

会期: 2009年10月31日(土) - 12月27日(日)

開館時間: 午前9時30分 - 午後5時(入館は閉館の30分前まで)

休館日: 月曜日 \*ただし11月2日(月)、11月23日(月・祝)は開館

主催: 京都国立近代美術館、**NHK** 京都放送局、**NHK** プラネット近畿

後援: 外務省、イタリア大使館、イタリア文化会館

協賛: 大日本印刷、三井住友海上火災保険

協力: 日本貨物航空、日本航空

チケット情報(9月1日[火]より販売開始)

|     | 当日     | 前売     | 団体(20名以上) |
|-----|--------|--------|-----------|
| 一般  | 1,400円 | 1,200円 | 1,100円    |
| 大学生 | 1,000円 | 800円   | 700円      |
| 高校生 | 500円   | 300円   | 300円      |

\*中学生以下無料、心身に障害のある方と付添者1名は無料(要証明)

## ■主な前売券発売所:

チケットぴあ各店舗/ファミリーマート、サークルK・サンクス(Pコード:688-764)/am pm/  
ローソン(Lコード:55597)/セブン-イレブン/JR西日本(近畿・北陸地区)の主な駅のみどりの  
窓口など

## [ 東京展 ]

会場: 東京都美術館(東京都台東区上野公園8-36 Tel. 03-3823-6921)

会期: 2010年1月16日(土) - 4月4日(日)

開室時間: 午前9時 - 午後5時(入室は閉室の30分前まで)

休室日: 月曜日 \*ただし3月22日(月・祝)は開室、23日(火)は休室

主催: 東京都美術館、**NHK**、**NHK** プロモーション

後援: 外務省、イタリア大使館、イタリア文化会館

協賛: 大日本印刷、三井住友海上火災保険

協力: 日本貨物航空、日本航空

チケット情報(9月30日[水]より販売開始)

|       | 当日     | 前売     | 団体(20名以上) |
|-------|--------|--------|-----------|
| 一般    | 1,400円 | 1,200円 | 1,100円    |
| 学生    | 1,200円 | 1,000円 | 900円      |
| 高校生   | 700円   | 550円   | 500円      |
| 65歳以上 | 800円   | 650円   | 600円      |

\*中学生以下は無料/身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付添いの方(1名まで)は無料

\*毎月第3水曜日は「シルバーデー」とし、65歳以上は無料

\*毎月第3土曜日、翌日曜日は「親子ふれあいデー」とし、都内在住で18歳未満の子を同伴する保護者は一般料金の半額

\*いずれも証明できるものをお持ちください。

## ■主な前売券発売所:

チケットぴあ各店舗/ローソンチケットほか/主要プレイガイド



## [ 報道関係 お問合せ先 ]

「ボルゲーゼ美術館展」広報事務局  
(株式会社 スプレ・エイディー内)

担当: 浅井、相原、増川、高橋

Tel. 03-3560-8223 Fax. 03-3560-0855

〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-22